

第2回ものアブリハッカソン

- ◆ 日時：2013年7月6日（土）～7月13日（土）
- ◆ 場所：大阪イノベーションハブ（グランフロント大阪 タワーC 7F）
- ◆ 参加者：36名
 - ハードウェアエンジニア 10名
 - ソフトウェアエンジニア 8名
 - プロダクトデザイナー 7名
 - ビジネスプランナー 11名

- ◆ 講師：

- 【アイデアソン】 GOB-Laboratory 渡辺直樹氏、谷口正樹氏
- 【プロトタイプینگ】 Plen Project Committee 赤澤夏朗氏、早石直広氏
- 【特別講義】 株式会社IPROS 岡田登志夫氏
「株式会社IPROS」
制御機器大手キーエンスの100%出資。同社の社内ベンチャー制度から起業。現在、月間150万人が利用する日本最大級の製造技術データベースサイト「イプロス製造業」を運営。

「第2回ものアプリハッカソン」作品介绍

資料6-2

『The Butoon』

長時間のデスクワークによる姿勢の歪みを解消する。ユーザーがセンサー内蔵の座布団に座ると、Androidアプリ上で姿勢がモニタリングされ、姿勢の歪みを指摘する。また座布団を折り畳むと、ヒーリング音楽が流れる枕になる。

『共感ロボ・シナスタ』

人に伝えづらい体の痛みを、意識することなく伝え、共感と呼ぶ。ユーザーが日ごろ無意識に触る患部にセンサーを装着し、ユーザーが触れると、遠隔地に設置されたロボットが反応し、患部を痛がるポーズをとる。

『ハイライトシッター』

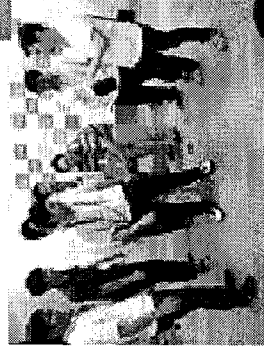
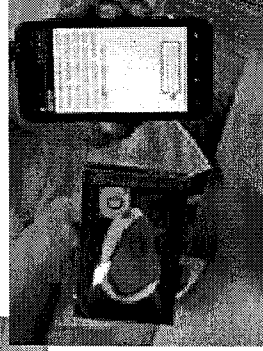
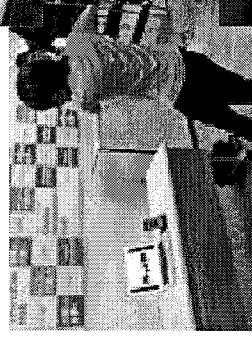
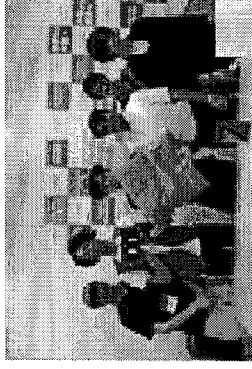
運動シーンのベストショットを記録し、モーションを高める。ユーザーは加速度センサーが埋め込まれたバンドを手首などに装着し、かつ専用アプリを起動させたスマートフォンを設置して、数秒間の動画をユーザーの動きに合わせて自動撮影する。

『CLIP VOICE』

PCのタイピング作業を減少させ、肩こりの原因を取り除く。ユーザーは片耳に小型のBluetooth内蔵ヘッドセットを装着し、音声が自動で記録されることにより、端末の画面上で議事録が自動作成される。複数人の会話をタイムライン制御により同時に記録し、また、外国語への自動翻訳も行われる。

『ふいとオフ』

仕事に忙殺されるビジネススマンに、気持ちを和らげる瞬間を提供する。ユーザーはスピーカーが内蔵された靴を装着し、歩くなどの動作に靴が反応し、ユーザーの好みに合わせた音楽を自動で流す。またネットから入手した天気情報と連携し、天気に合わせて気分を変えような音楽も配信する。



マスメディアによる掲載 (第2回ものアプリハッカソン)



- ✿ 毎日新聞 (2013/6/19)
- ✿ 自動車新聞 (2013/7/11)
- ✿ CNET: 朝日新聞デジタルへ配信 (2013/7/16)
- ✿ ITpro: Yahooニュースへ配信 (2013/7/17)
- ✿ 日刊工業新聞 (2013/7/17)

CHET Japan ニュース 企業・業界 2位

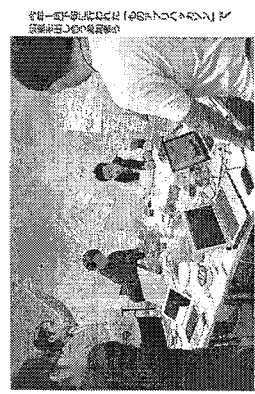
大阪に芽吹くイノベーションの意志ー大阪市が「第2回ものアプリハッカソン」を開催

7月6日から7月13日には、大阪市都市計画が生祖した「第2回ものアプリハッカソン」が開催され、関西圏を中心としたハードウェアエンジニアやソフトウェアエンジニア、プロダクトデザイナーら約40名によるハードウェアのハッカソン(短期開発型の開発イベント)が盛り上げられた。

健康管理 多様な観点からアプローチ

「子どものづくりを担う会社でも新製品を開発するイベント『ものアプリハッカソン』(http://www.nishinori.co.jp/innovation/innovation.html)が開催された。主催者は、産業界と大学が連携してイノベーションを創出することを目的としている。産業界からは、医療機器の開発に力を入れている「ハッカソン」では、コンピュータの活用が期待されている。産業界からは、医療機器の開発に力を入れている「ハッカソン」では、コンピュータの活用が期待されている。産業界からは、医療機器の開発に力を入れている「ハッカソン」では、コンピュータの活用が期待されている。

来月6、13日「グランフロント ナレッジキャピタル」参加者を募集



・管理する・維持する・向上する…
「ものアプリハッカソン」は、産業界と大学が連携してイノベーションを創出することを目的としている。産業界からは、医療機器の開発に力を入れている「ハッカソン」では、コンピュータの活用が期待されている。

■感想

- ・もっと続けて欲しい
- ・起業への精神的障壁が取り払われた
- ・技術者である自分の素晴らしい技術がもっと受け入れられると思っていたが、具体的なニーズがないことがわかった
- ・VCの方からの質問は的を得ており、そういう視点から考える必要があるのかと気づきを得ることができた

■改善してほしい点

- ・1回1回の時間が短い(※3時間)
- ・講師とディスカッションをたくさんやれたかった
- ・もっと早くから受講者同士の交流を深める機会があればよい
- ・脱落者が多く、簡単に休めるので参加料を高くして本気度の高い人に絞るべき(※2000円)